

紀伊民報

ミズクラゲ



久保田 信

19



大型クラゲのミズクラゲは
鉢クラゲ類の代表種として知
られる。海でよく見掛ける時

季は、田辺湾では春から夏に
かけてである。

ミズクラゲはヨツメクラゲ
とも言われるように、生殖巣
が傘の真ん中に4個見える。
雌雄別々で、体外受精による
有性生殖によって子孫である
プラヌラを多数誕生させ、雌
はカリフラワールのようになっ
た口腕でプラヌラをしばらく
保育する。

次世代のプラヌラ幼生は、
いつしか親クラゲを離れ、短

期間のプランク
トン生活を送
る。海底の適当
な附着場所を探
すと、小さなポ
リプに変身す
る。それは人間
の目にはよく見
えないほど小さ
く、イソギンチ
ヤクのミニチュ
アのような姿を
して、海底でひ
ヨツメクラゲとも
呼ばれるミズクラ
ゲ

っそりと暮らす。

ポリプは、冬が来て水温の
低下と日光の弱さを感じ取る
と、色白で丈の低い小さな体
を上方に伸ばし、できるだけ
たくさんのかびれを体全体に
つくる。まるで皿を重ねたよ
うな姿になり、ストロビラと
呼ばれる。この皿の一枚一枚
がクラゲ体の最も若い姿でエ
フィラ（直径1ミ程度）と呼
ばれる。

このような分身（クローン）
による増え方で、たった1個
体のポリプから莫大（ばくだ
い）なクラゲをつくりだすこ
とができる。エフィラの周囲
には、花弁のような8枚の縁
弁が見られ、海中をコスモス
の花が舞い散るような動きを
見せる。

海中でプランクトン生活を
送る間に小さな甲殻類などを
たらふく食べて、1カ月もあ
ればゼラチン質をたんまり蓄
え、直径十数センチものクラゲに
みるみる成長する。ただ、ク
ラゲは長くて数カ月ほどで溶
け去ってしまう運命にある。

（京都大学准教授）